

「これから美術と  
名指される  
(かも知れない)  
何か

— 美術教育の現場における美術とアーティスト・イン・レジデンス —

出演

藏本秀彦 (アーティスト、香川県立高松工芸高等学校 美術科 教諭)

三村昌道 (アーティスト、香川県立高松工芸高等学校 美術科 教諭)

土屋貴哉 (アーティスト、国立大学法人佐賀大学 芸術地域デザイン学部 准教授)

水谷一 (高松アーティスト・イン・レジデンス 2017 招聘アーティスト)

2018年1月6日 [土] 16:00 - 18:30 (開場 15:30)  
要予約 予約先: [tair2017hm@gmail.com](mailto:tair2017hm@gmail.com)

瓦町 FLAG 8F IKODE 瓦町 大会議室1 (定員150名) 参加費無料

所在地: 香川県高松市常磐町1丁目3-1 (瓦町 FLAG は香川県高松市の「ことでん 瓦町駅」に直結する商業ビルです)

# これから美術と名指される(かも知れない)何か

## — 美術教育の現場における美術とアーティスト・イン・レジデンス —

この度、高松アーティスト・イン・レジデンス 2017 の関連企画として、私、水谷一の立案により、トークイベント『これから美術と名指される(かも知れない)何か — 美術教育の現場における美術とアーティスト・イン・レジデンス —』を開催します。

私は「先生」という肩書きを持ちませんが、2017 年は二度も「美術教育の現場」を運良く覗かせて頂きました。そのどちらもとても魅力的で、エネルギーに溢れ、正に美術が美術として生まれるその息吹を直感する体験でした。

従来の美術という言葉で規制される何かではない、これから美術と新しく名指される(かも知れない)何かがこの二つの現場それぞれのすぐその先にあるように思えたのです。

以前、徳島県の「神山アーティスト・イン・レジデンス」に参加した際にも同系の思いを抱きました。ここでは主に地元住民からなるサポーターをはじめとした方々が、歴々のレジデンス・アーティスト達が寄贈した屋内外の作品を、それぞれの滞在当時の思い出やサポートの苦労話と共に

大切に守っていました。

この神山で私が感じたことと、2017 年に、わずかではありますが覗かせてもらった美術教育の現場に感じたことの共通点は、そこに立ち上がろうとしている(まだ何かよくわからない、美術かどうかもわからない何か)を、そう簡単に白だ黒だ黄色だ青だとジャッジしない“心意気”でした。

今回、先述した美術教育の現場から三人の先生を本イベントにお迎えします。アーティストとして活躍されると同時に、教育者として美術教育の最前線に立たれる香川県立高松工芸高校 美術科 教諭の藏本秀彦先生と三村昌道先生、そして国立大学法人佐賀大学 芸術地域デザイン学部 准教授の土屋貴哉先生です。

お三人からご自身のアーティストとして、教員としての実践とその視線の先についてのお話を頂戴し、また、私のアーティスト・イン・レジデンス経験を含むこれまでのアーティスト活動をご紹介することから話題を展開し、これから美術と新しく名指される(かも知れない)時間が生まれればと思います。

### 出演者プロフィール



#### 藏本秀彦 (くらもとひでひこ)

1965年香川県生まれ。1989年筑波大学大学院修了。アーティスト。高松工芸高校美術科教諭。「希望や、悲しみの上にも木漏れ日はいつも変わらず降り注ぐ。胸が張り裂けそうな叫びにも似た祈りが続いているということ。忘れてはいけないことは、このことを忘れてはいけないということ。震災以降、作品は様々なスタイルで展開し続けている。」2018年2月より展覧会「高松市美術館コレクション+木村忠太とこぼれる光の中で」にゲストアーティストとして出品予定。



それでも木漏れ日は  
(香川県立ミュージアムでの展示風景)  
2017



#### 三村昌道 (みむらまさみち)

1965年香川県生まれ。アーティスト。高松工芸高校美術科教諭。1990年多摩美術大学絵画科油画卒業。はっきりと存在を主張しているものよりも、あるように見えてないもの、よく見ようとしてもはっきり見えないものなど、不確かな存在をテーマに絵画を制作している。1996年、コバヤシ画廊(東京)での個展からスタートし、「神山アーティスト・イン・レジデンス 2002」(徳島・神山町)などで作品を発表する。

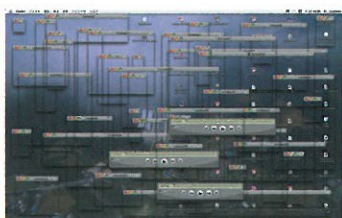


A Moment of Snow  
キャンバスにアクリル  
194cm×130.3cm(F120号)  
2017



#### 土屋貴哉 (つちやたかよし)

1974年東京都生まれ。アーティスト。佐賀大学准教授。2001年東京芸術大学大学院修了。90年代末より、日常を支える環境化した環境物、環境システムへ、きわめてシンプルな方法で介入をほどこし、知覚に揺さぶりをかける作品を発表。それらは、映像・写真・平面・立体・インスタレーションなど、多メディアに渡り展開される。近年はウェブ上で展開するネットアートシリーズも試みる。国際展 FILE SP 2014 (サンパウロ) 日本代表。



Desktops  
PC, LCD, MacOSX, jpg, mov  
2009



#### 水谷一 (みずたにはじめ)

1976年三重県生まれ。アーティスト。2003年多摩美術大学大学院修了。種々の事象にアナログ的な視点を持つことで「表現」を多面的、多角的に考え、普遍的有用性をそなえた作品の実現を目指す。国内外 12 箇所アーティスト・イン・レジデンス参加。出品展覧会は「引込線 2017」、「瀬戸内国際芸術祭 2013 (粟島)」ほか多数。高松アーティスト・イン・レジデンスにより 2017年11月から約80日間、高松市に滞在。



表現と光 (制作途中における部分)  
木炭、紙  
2017

主催：高松市 お問合せ：高松市 文化芸術振興課 TEL：087-839-2636 (平日9:00-17:00)

●予約のお申し込みは下記メールアドレスまで、件名を「トークイベント参加希望」とし、本文に「お名前」、「参加希望人数」をお書きの上、Eメールをお送りください。

※定員になり次第、閉め切らせていただきます。何卒ご了承ください。予約先：[tair2017hm@gmail.com](mailto:tair2017hm@gmail.com)

関連イベント：高松アーティスト・イン・レジデンス 2017 関連事業 | 水谷一美術展「表現と光」

2018年1月5日[金]—1月11日[木]11:30-16:30 | 高松市中央卸売市場・加工水産物棟 三階 | Website：<http://hajimemizutani.net/tair2017>